

# 事例研究報告

**小学部低学年児童における  
援助を必要とする場面で適切に  
相手の注目を引く行動の指導**

# 児童の実態

- 小学部 1 年生男児 知的障がい
- 発達年齢 2 歳 2 ヶ月
- コミュニケーション  
受容：2 語文の簡単な言語指示を聞いて行動できる。  
表出：発語はないが、「あー！」等の発声はある。  
カードを使った要求や報告ができつつある。
- 引っ張る等して、強引に自分の方に向かせたり、気づいてほしい相手の目の前に行ったりすることはできる。
- 注意散漫で行動が止まってしまうため、夏休みに教室内の囲われた環境（本児の専用コーナー）を設置し、10月頃にはそのコーナーで活動することに慣れてきた。

## 保護者の願い

- 言葉でコミュニケーションがとれるようになってほしい。
- 自分から友だちと関わってほしい。

## 教員の願い

- 誰に対しても伝わる方法で，援助要求や報告ができるようになってほしい。
- 好きな物や興味のあることを増やしてほしい。

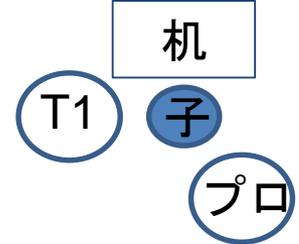
## 指導目標

『お菓子が入った容器を開けてほしい時に、教員の肩を「トントン」と叩いて呼ぶことができる』

※AI-PACの俯瞰図より  
コミュニケーション（要求）の  
「注目（見て／ねえねえ）」

# 指導の手続き

本児の専用コーナーで、対面での学習時に、椅子に座って行う。（はじめはプロンプターあり。徐々にフィードアウト。）

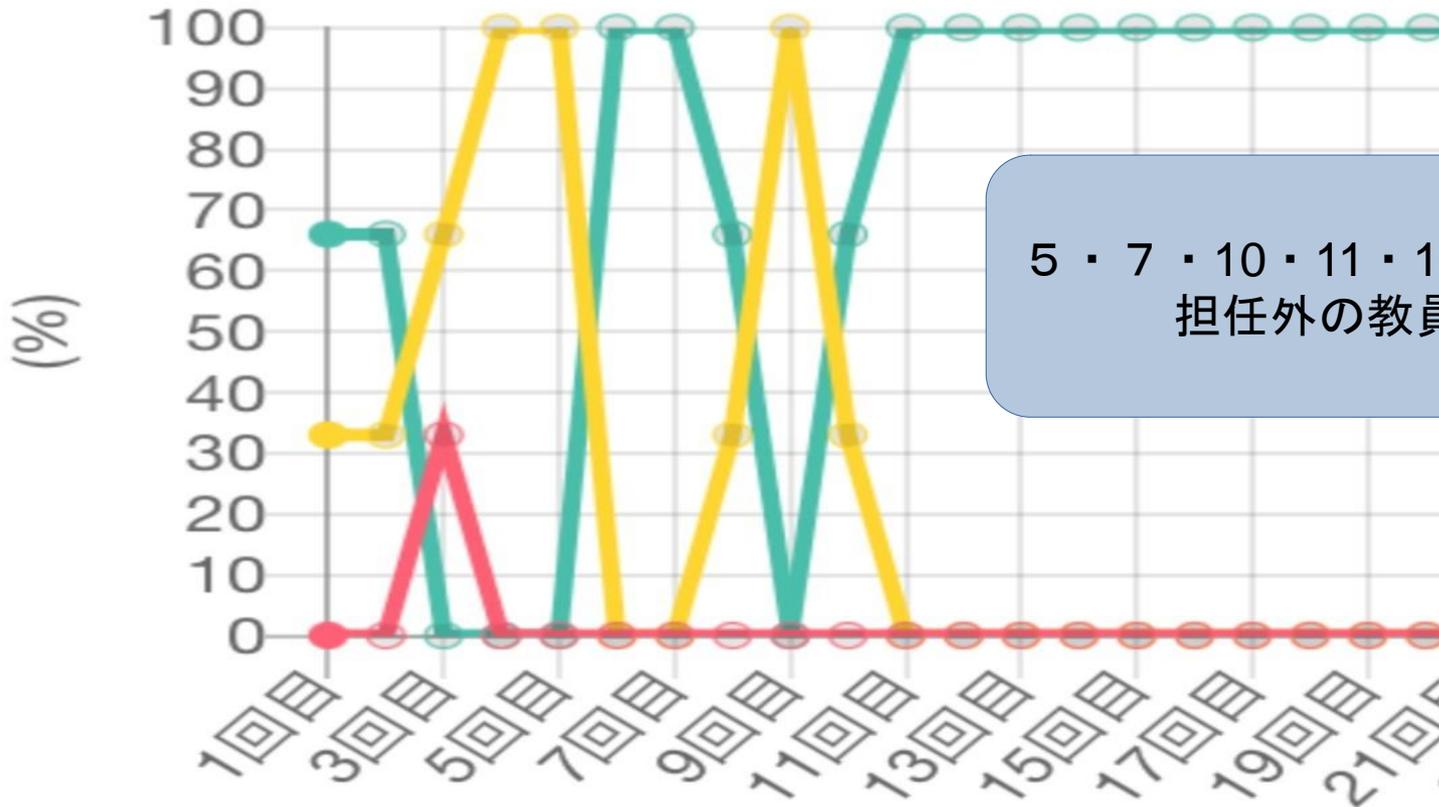


- ①透明の瓶にチョコを1個入れて提示する。
- ②本児に背を向けて待機する。
- ③開けてほしい時に、肩を引っ張ろうとしたら、「トントン」と言って示範や言葉かけを行う。
- ④肩を叩いて教員を呼ぶことができれば、フタを開けて言語称賛する。

※この手続きを毎回3回行う。  
※担任外の教員とも挑戦。



# 記録方法と記録



5・7・10・11・16・20回目は  
担任外の教員と！

- - : 肩を「トントン」と叩いて呼ぶことができなかった。
- P : Tが肩を叩く示範や「トントン」の言葉かけを行った。
- + : 肩を「トントン」と叩いて呼ぶことができた。

# 指導の成果

- はじめは、気付いてほしい一心で、強引に顎や肩を引っ張ることがあったが、肩を叩くまで振り返らず待機すると、自ら教員の肩を叩いて呼ぶことができるようになった。
- 活動が止まりがちな本児であるが、強力な好子（大好きなチョコ）を用意することで、意欲的に取り組むことができた。
- 担任外の教員にも、肩を叩いて呼ぶことができた。

## アドバイザーからの助言

### ・ 般化にむけてステップアップしては？

- ①中身（チョコ）を変える。  
→パズルのピースや課題の文字チップなど
- ②入れ物（瓶）を変える。  
→ジップロックの袋など
- ③距離を離していく。  
→1, 2歩離れたところで待機し、呼びに来ることができるかどうか。

# 助言を受けて

## ◎ 入れ物（瓶）を変える

→操作が必要な透明の箱に変更。



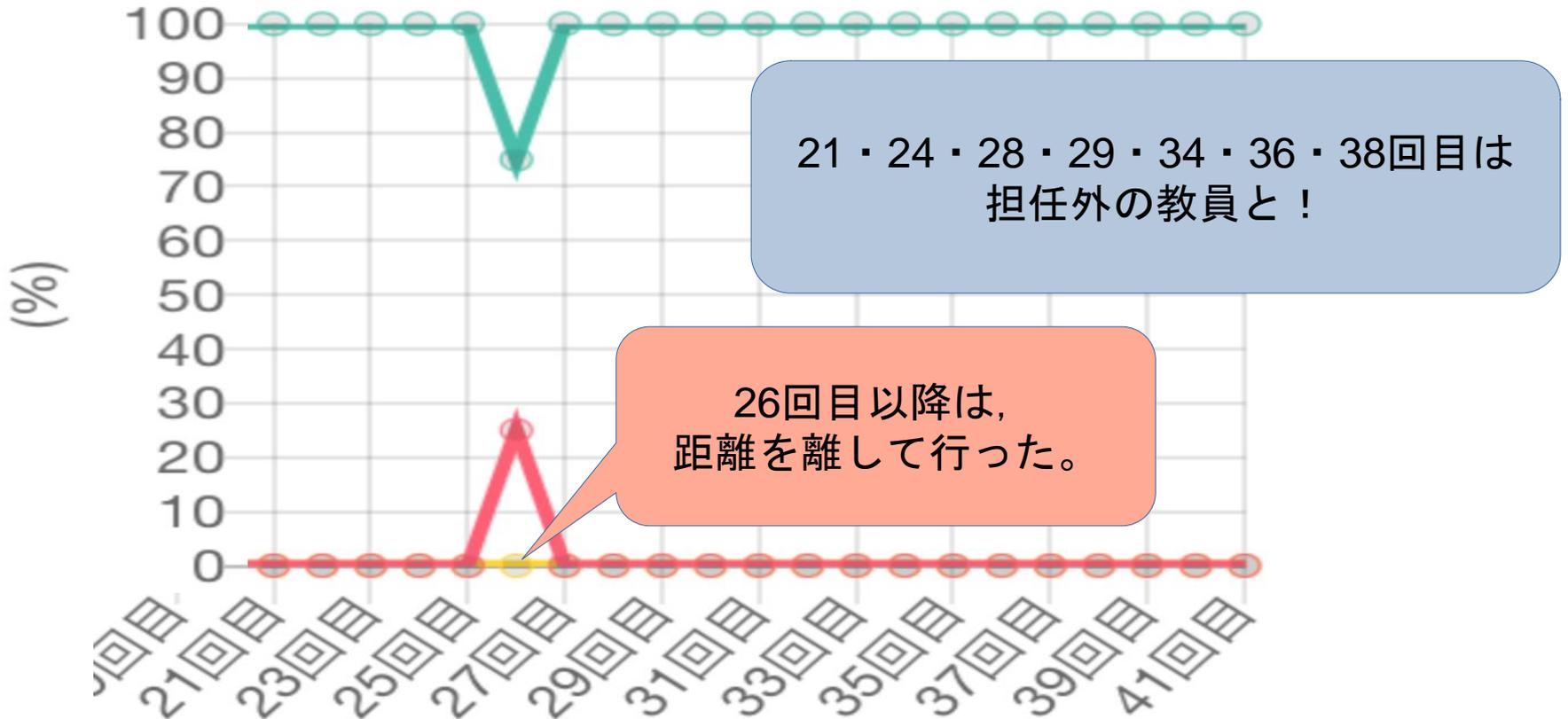
## ◎ 距離を段階的に離していく

→専用コーナーで本児との距離を少し離す。

→専用コーナーの扉を開けて，距離をさらに少し離す。

→専用コーナーの扉を閉めて，渡す教員が見えない環境を設定する。（教員はコーナー外）

# 記録方法と記録



- - : 肩を「トントン」と叩いて呼ぶことができなかった。
- P : Tが肩を叩く示範や「トントン」の言葉かけを行った。
- + : 肩を「トントン」と叩いて呼ぶことができた。

# 指導の成果

## ◎ 入れ物（瓶）を変える

- ・ 入れ物が変わっても肩を叩いて呼ぶことができた。箱が提示されると、すぐに肩を叩こうとする姿も見ることができた。

## ◎ 距離を離していく

- ・ 最終的に直線 6 m程離れた距離でも、教員のところまで行って「トントン」と叩くことができた。扉で教員が見えない時も中断することなく教員を呼ぶことができた。

# ここが成功のポイント

## ◎ 集中できる環境を整える！

- ・ 学習スペースを囲い、外部からの刺激を遮ることで、集中して取り組むことができた。

## ◎ 好子の有効活用！

- ・ 好きなものを学習に取り入れることで、学習に対する意欲が高まった。

## ◎ 指導の手続きを共有する！

- ・ 教員誰もが同じ手続きで指導を行うことで、般化に繋げやすかった。

# 行動の般化と維持

## ◎ 違う場面でもできるように！！

- ・ 学校：自立課題（一人で勉強）後の終了報告や，着替え等の援助要求でも，「トントン」と肩を叩いて教員を呼ぶことができるようになった。
- ・ 家庭：母に「おいしい」ことを伝えたいときや，姉に玩具を貸してほしいとき等，場面や相手に限らず「トントン」と肩を叩いて相手を呼ぶことができるようである。

## ◎ 長期休みを挟んでもできている！！

- ・ 冬休み明けに実施したが，距離が離れていても「トントン」と肩を叩いて教員を呼ぶことができた。担任外の教員でも成功している。